

0. 検定について

- ・ 複数回答項目のクロス集計では選択肢ごとに χ^2 検定を実施
- ・ 単一回答項目のクロス集計では項目全体で χ^2 検定を実施
- ・ 平均値の比較については、5 群の比較では一要因分散分析を、2 群の比較では t 検定を実施
- ・ 統計的な有意差が見られた箇所にはアスタリスクを表記 (**1%水準、*5%水準)

1. 困難経験群（ニート群、ひきこもり群、不登校群、高校中退群の 4 群）と困難経験なし群の分析

1.1. 各群の抽出方法と人数

1.1.1. ニート群、ひきこもり群、不登校群の抽出方法

- (1) 問 2 困難経験の有無で「①あった」「②どちらかと言えばあった」のいずれかを選択
- (2) 問 2-1 で①ニート、②ひきこもり、③不登校のいずれかを選択

→ニート群 n=211、ひきこもり群 n=126、不登校群 n=166

1.1.2. 高校中退群の抽出方法

- (1) 問 1 ライフステージごとの経験【高校時代】において「中退した」を選択

※ ④職業および④-2 在学中の学校で中学または高校に在学中と回答し、問 1 ライフステージごとの経験【高校時代】において「中退した」を選択した人は除外した

- (2) 問 2 「困難経験の有無」で「①あった」「②どちらかと言えばあった」のいずれかを選択
- (3) (1) かつ (2) を満たす人 n=129
- (4) (3) からニート・ひきこもり・不登校の該当者を除外 n=80
- (5) (1) に該当しないが、問 2-1 で「④高校中退」を選択した 11 人を (4) に追加

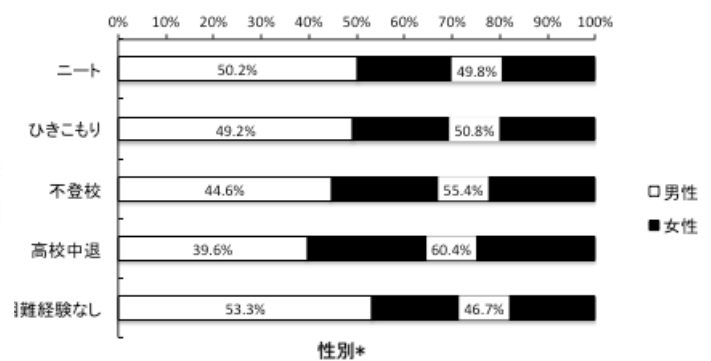
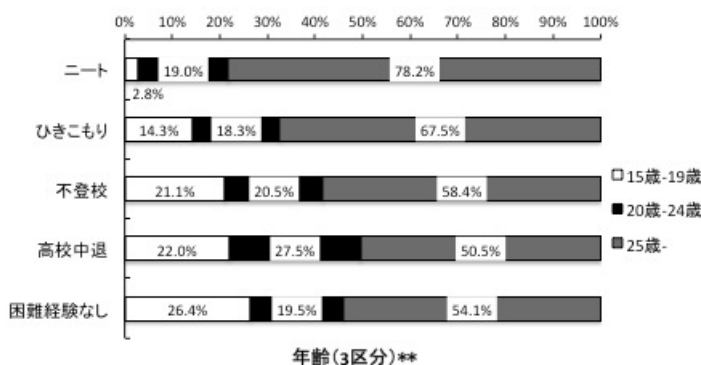
→高校中退群 n=91

1.1.3. 困難経験なし群の抽出方法

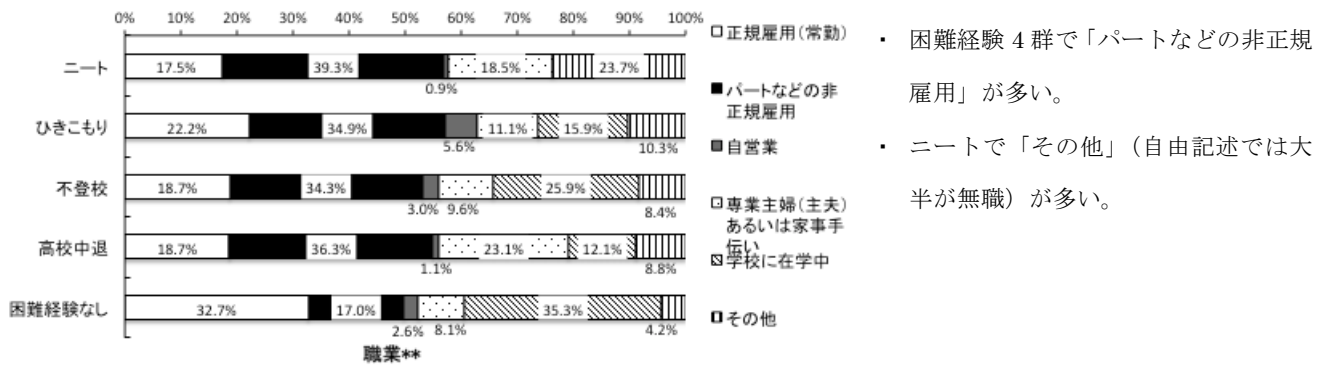
- (1) 問 2 困難経験の有無で「③どちらかと言えばなかった」「④なかった」「⑤わからない、答えられない」のいずれかを選択

→困難経験なし群 n=1487

1.2. 年齢・性別・職業



- ・ ニート群で「25 歳以上」が多い。
- ・ 高校中退群で「女性」が多い。

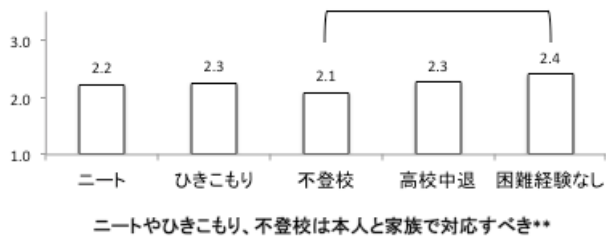


- ・ 困難経験 4 群で「パートなどの非正規雇用」が多い。
- ・ ニートで「その他」（自由記述では大半が無職）が多い。

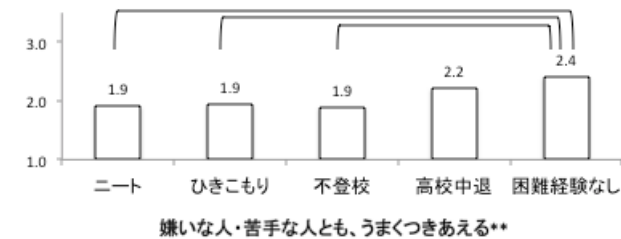
1.3. ライフステージごとの経験

別ページに記載

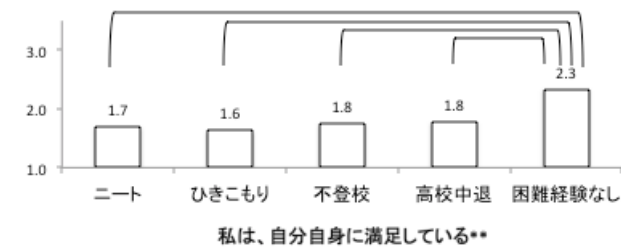
1.4. 意識状態



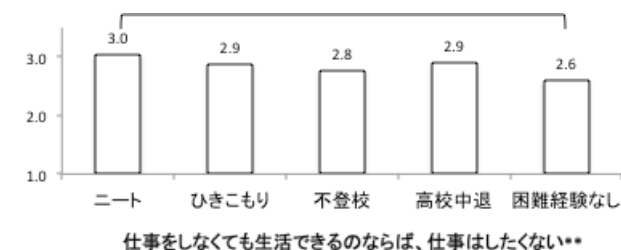
- ・ 「ニートやひきこもり、不登校は本人や家族だけで対応するのは困難であり、専門家や支援機関が支援すべき」では各群の間に差はない。



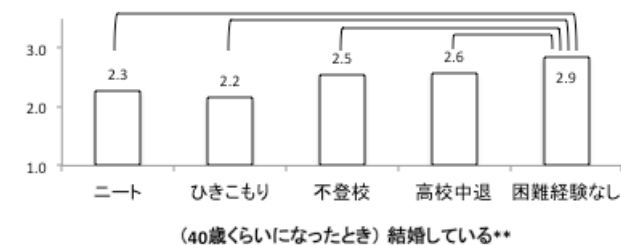
- ・ 「友達から悩みを打ち明けられることが多い」や「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」でも類似した結果が見られた。



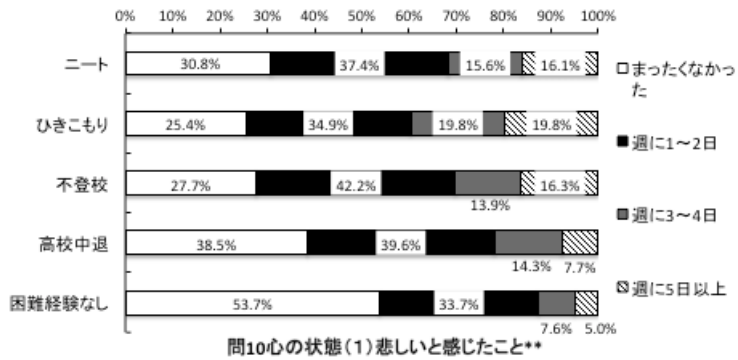
- ・ 「自分には長所があると感じている」や「うまくいくかわからないことでも意欲的に取り組む」でも類似した結果が見られた。



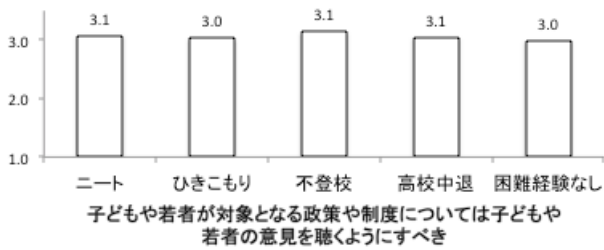
- ・ 「定職に就かない方が自由な生き方ができる」でも類似した結果が見られた。



- ・ 「子どもを育てている」や「幸せになっている」でも類似した結果が見られた。

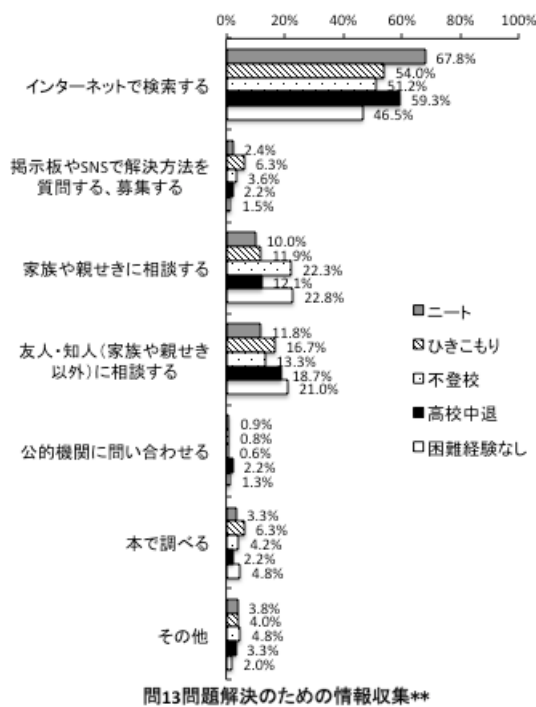


・ 「何事も憂うつだと感じたこと」や「一人ぼっちで寂しいと感じたこと」でも類似した結果が見られた。



・ 困難経験の有無に関わらず、「子どもや若者の意見を聴くべき」と考える傾向が高い。
 ・ 「子どもや若者も将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加できるようにすると良い」でも類似した結果が見られた。

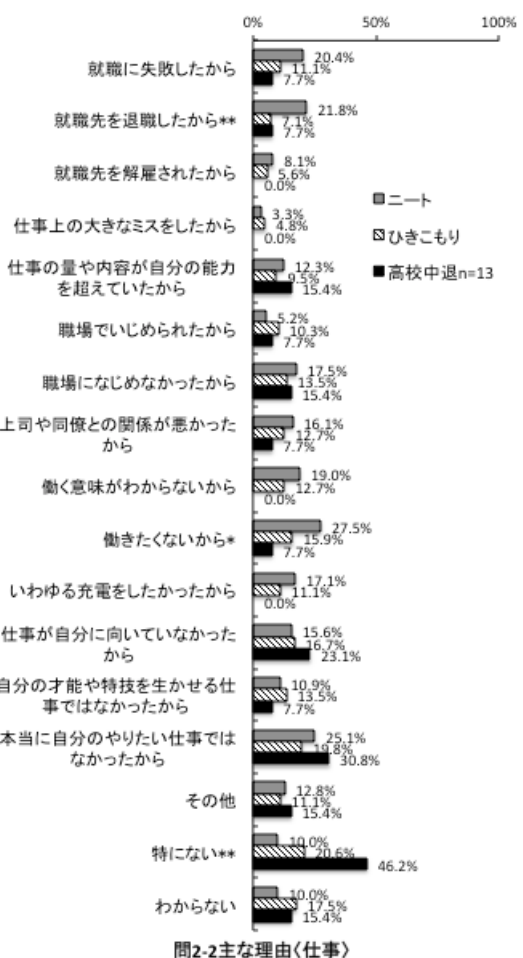
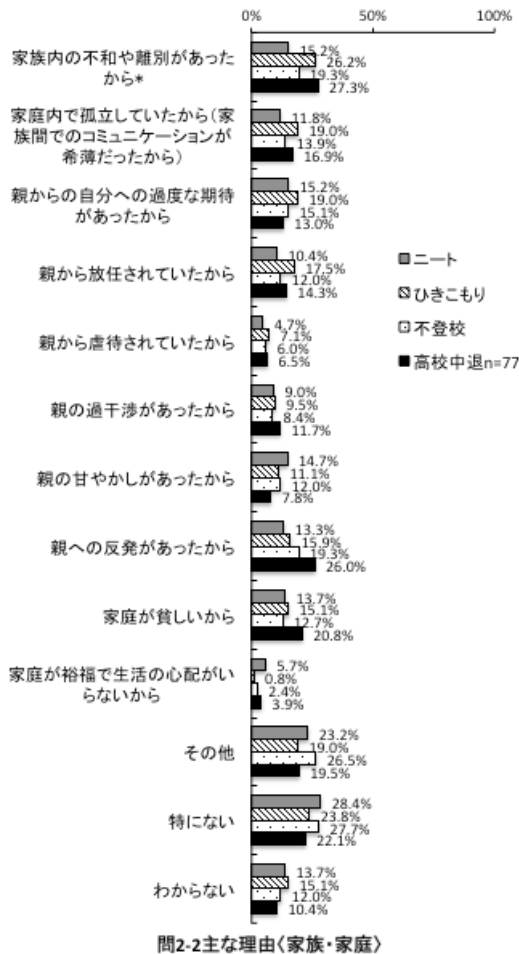
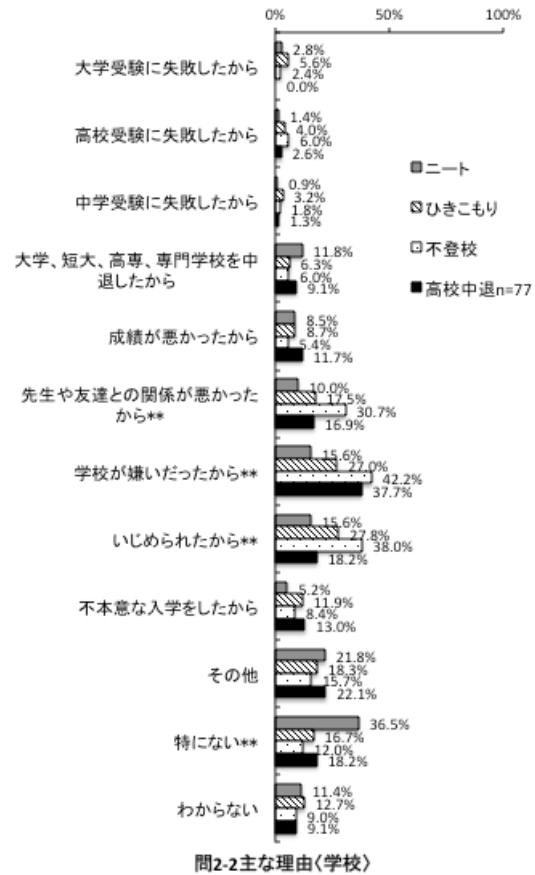
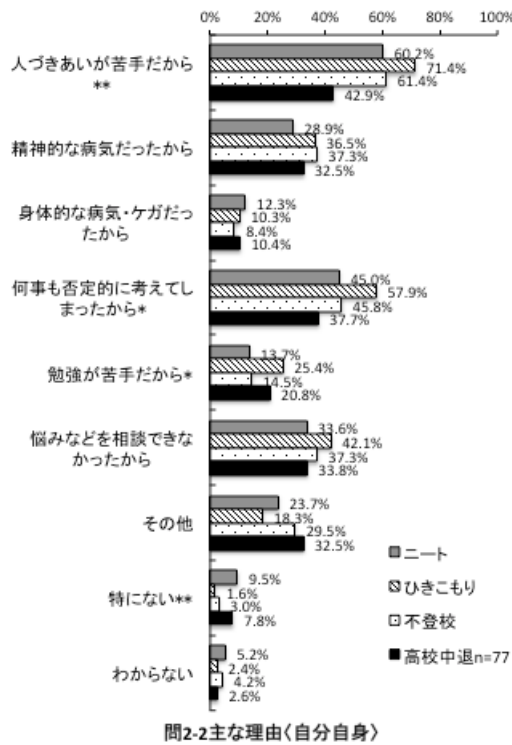
1.5. 問題解決のための情報収集方法



・ どの群も「インターネットで検索する」が最も多い。
 ・ ニート群で「インターネットで検索する」が多い。
 ・ ひきこもり群で「掲示板やSNSで解決方法を質問する、募集する」が多い。
 ・ 困難経験4群は、家族や友人に相談することが少ない傾向がある。

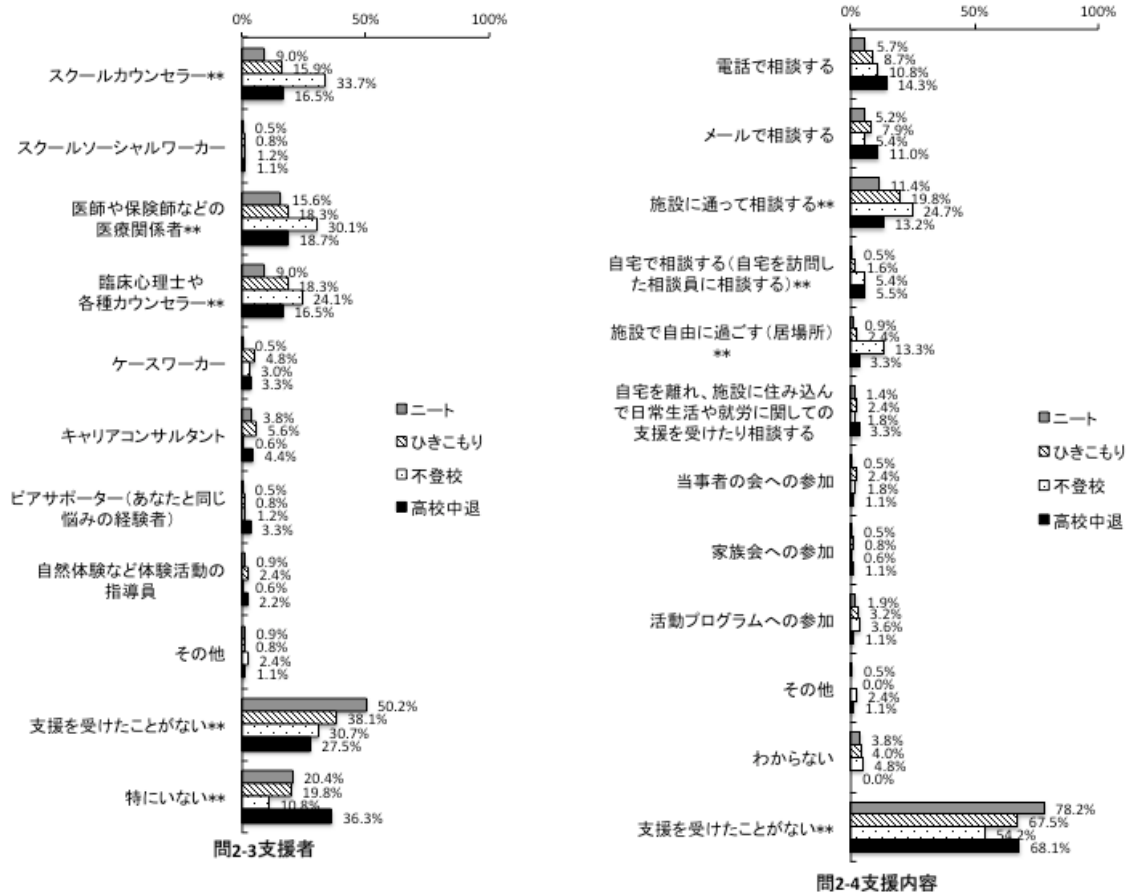
2. 困難経験群（4群）の困難の理由と支援の利用状況

2.1. 主な理由



- ・ ひきこもり群で自分自身に関する理由、不登校群で学校に関する理由、ニート群で仕事に関する理由が多い。
- ・ いずれの領域でも「特にない」「わからない」が一定数あり、本人も明確な理由を自覚できていない可能性がある。

2.2. 支援の利用状況



- ・ 不登校群は「医師や保険師などの医療関係者」や「臨床心理士や各種カウンセラー」からの支援を受けている。
- ・ 支援者については、不登校群以外の3群は「支援を受けたことがない」や「特にいない」が多い。特にニート群で「支援を受けたことがない」が多い。
- ・ 不登校群は「施設に通って相談する」や「自宅で相談する(自宅を訪問した相談員に相談する)」、「施設で自由に過ごす」が多い。
- ・ 支援内容については、4群とも「支援を受けたことがない」が最も多い。